主にある姉妹たちが教え、指導することを支持する14の聖書的理由

テラン・ウィリアムズ（Terran Williams） ・ ドイツ語版の編集・加筆：Hans-Jörg Ronsdorf ・ 2023年3月 ・ 2026年10月改訂

このテーマは今もなお激しく議論されています。女性は教会で教えることも指導することも許されず、それは男性だけに委ねられている、という立場は「補完主義」と呼ばれます。これに対して、いわゆる「平等主義」は、性別による区別や制限を設けることなく、その両方を女性にも認めます。どちらの用語も、1990年代にアメリカの福音派の中で作られました。「補完主義」[1]という用語が意味しているのは、確かに男性と女性が互いに補い合うことですが、同時に、はっきりと階層的な補い合いでもあります。つまり、女性はいわゆる創造の秩序において男性に従属している、というのです。男性が導き、女性が従います。しかし本来、補完的でありうるのは、同じ大きさ、同じ価値、同じ強さ、あるいは同じ種類のものだけです。男性と（その）女性とは、その本質においてまさにそのような存在です――ただし、男であること、女であることの違いを持ちながら。

平等主義もまた、その用語において同じように明確ではありません。それは男性と女性を同等の権利を持つ者と見なし、指導し教えるよう委ねられた者と見なします。しかしこの立場は、この用語が暗に示すように、二つの性を「同じ」にしたり、区別のないものにしたりするわけではありません。後者の立場もまた、男性と女性が互いに補い合うことを認めています。二人は、その違いの中で互いに寄り添うために、互いのために造られたのです。

私たちが取っている立場は、「平等主義的補完主義」と呼ぶのが最もふさわしいでしょう。すなわち、男性と女性は、階層や権威の差なしに、対等に互いを補い合うということです。（HJR）

補完主義の友人たちの多く――彼らは今も友人であり、これからも友人であり続けます――は、男性の権威を支持する「聖書的」議論が、実のところすでに納得のいく形で根拠づけることができなくなっていることに気づいていません。それが存続しているのは、疑わしい学問、欠陥のある論理、そして聖書的・神的な裏づけを持たない人間の構築物を維持している組織や人物の力の結果です。では、何がこの亡骸を立たせ続けているのでしょうか。それは、（少なくとも今のところ）なお真理に勝っている、頑なな部族意識、あるいは集団思考の感情です。

誠実に、神を恐れて生きたいと願う多くの人々が、悪い神学に従うように誘導され、指導の場にいる女性は聖書に対する世俗文化の勝利だと信じ込まされてきました。しかし、次の聖書のデータに注目してください。

1. アダムとエバは異なるものとして造られていますが、エバはアダムの部下としてではなく、機能的に同等の相手として造られました。補完性は、はい。階層は、いいえ。（**こちら――さらに深く学ぶためのリンク。以下のリンクと同様、英語です**）
2. 男性が支配すべきだという考えは、堕落の後に生じたものです。男性が女性を支配することになったのは、創造の結果ではなく、最初の人間たちの不従順の結果でした（創世記3:16）。（納

得できませんか。詳しくはこちら）**このことは、後に続く聖書箇所を、あたかも神が男性の権威をまさに理想化しているかのように解釈する前に、私たちを立ち止まらせるはずです。**

3. 神は、デボラをその時代の神の民の最高の市民的・霊的指導者として立てられました。それも、彼女が最高の軍事指導者であるバラクに命令を下すほどでした（士師記4章、5章）。この事実は、テモテへの手紙第一2章12節の補完主義的な解釈に影を投げかけています。こちら

4. イエスは、女性の価値と奉仕を高めることの先駆者でした。とりわけ、最初のイースターの日にイエスがマグダラのマリアと出会い、彼女に使命を託されたことに注目してください。驚くべきことに、イエスは歴史上最も重要な日の中に、人々への一つの教訓を織り込まれました。すなわち、あなたがたの姉妹たちの口から出る神のことばに信頼しなさい、ということです（ヨハネ20:17-18）。（こちらとこちら）そして、いいえ、イエスが十二人の男性の使徒を選ばれたのは、「創造の原則」や「創造の秩序」に基づいてのことではありません。イエスは救済史の過渡的な段階との関連で、象徴的な理由からそうされたのです。（これは確かです）

5. 長老の資格を扱っている唯一の箇所であるテモテへの手紙第一3章とテトスへの手紙1章は、正しく解釈するなら、女性が長老になる可能性を開いたままにしています。これは、指導的な補完主義者たちも今では認めている事実です。こちら ガラテヤ人への手紙3章28節（「キリストにあっては……も……もありません」）は、万能の答えでも根拠でもありませんが、少なくとも、神が聖書のほかの箇所で女性（あるいは奴隷や異邦人）が指導したり教えたりすることをはっきり禁じているはずだと考えるとき、私たちを立ち止まらせるはずです。

6. 新約聖書には、女性であれ男性であれ（おそらくペテロを除いて）、名前の挙げられた教会の指導者や長老はいませんが、女性が教会を指導し、教えていたことを示す証拠があります。プリスキラは、ほぼ確実にエペソの教会の指導者であり教師でした。そしておそらくほかの教会でもそうでした。詳しくはこちら。または、この動画をご覧ください。このことは、テモテへの手紙第一2章12節の補完主義的な解釈と矛盾します。また、ご自分の弟子たち（男性と女性）がすべての人を教えるべきだというイエスの命令（マタイ28:19-20）も同様にそれと矛盾します。ですから、プリスキラが仕えていた一つの教会で、男性も女性も「教え」をもたらしたこと（コリント第一14:26）、そして神が、プリスキラの次の教会で、彼女を用いて教会の将来の偉大な教師の一人であるアポロを教えさせたこと（使徒18:26）は、驚くにあたりません。

7. プリスキラだけでなく、ほかにも家の所有者あるいは責任者であった女性たちが、自分の家に教会を設立し、あるいは自分の家に教会を迎え入れていました。そのうちの何人かは新約聖書に名前が挙げられています。このことは、彼女たちがおそらくそれらの教会の指導者の候補でもあったことを示唆しています。納得できませんか。詳しくはこちら

8. 名前の挙げられた女性教師はプリスキラだけではありません。フィベは、パウロの「手紙の使者」としてコリントからローマへ運んだローマ人への手紙を、集まったローマの教会に説明するよう、パウロから委ねられていた可能性が非常に高いのです（ローマ16:1-2）。その証拠はこちらをご覧ください。

9. そうではなかったというウェイン・グルーデム（Wayne Grudem）の議論にもかかわらず、新約聖書の教会の女性預言者たちは、集まった教会の中で一種の教えを行っていました（コリント第一14:26）。こちら（1時間7分以降）。

10. 指導者や教師よりもさらに影響力のある役割を担っていた一人の女性がいました。**女性であるユニアが、バルナバやシラスと同じように、重要な使徒であった可能性は非常に高いのです（ローマ16:7）。**このこともまた、テモテへの手紙第一2章12節の補完主義的な解釈と矛盾します。その理由と事実についてはこちらをご覧ください。

11. **パウロの議論の的となっているテキストは、正しく理解するなら、これまで述べてきたことを何一つ損なうものではありません。**コリント人への手紙第一11章2-16節と14章34-35節は、正しく解釈するなら、すべての教会における女性の指導を一般的に禁じるものではありません。これらの箇所がどれほど議論の的となっていようとも、そのための証拠は明確です。コリント人への手紙第一11章についての詳しい考察はこちら、14章についてはこちら。

12. テモテへの手紙第一2章12-14節は、一見すると、特にある種の翻訳においては、男性の権威が一般的に定められているかのような印象を与えるかもしれません。しかし、「支配する」と訳される語、ギリシア語の**authentein**（「私は、女が……男に対してauthenteinすることを許しません」の中の語）、さらに文学的文脈と状況的文脈（テモテへの手紙第一におけるような）をより詳しく調べると、なぜそれが誤った解釈なのかがわかります。正典的文脈も考慮に入れなければなりません。特に、聖書に登場する多くの女性指導者や女性教師たちが、そのような読み方に反対する証拠となっています。（私の本の第7章から、authenteinについての研究の抜粋です。あるいは、テモテへの手紙第一2章12節に関する主要な補完主義の研究に対するバートレット（Bartlett）の批判の要約を、付録としてこちらでお読みください。）

13. 結婚における役割についてはどうでしょうか。たとえ新約聖書が妻に対する夫の権威を教えているとしても、それは指導者や説教者が男性でなければならないことを意味しません。**新約聖書の中で結婚について述べた最も長い箇所であるコリント人への手紙第一7章では、互いに従うことと合意とが、結婚における決定の規範であることが明らかです。**不思議なことに、このことに気づいている人はほとんどいません。こちら エペソ人への手紙5章とペテロの手紙第一3章は、正しく解釈するなら、夫の一方的な権威ではなく、結婚における互いの服従を教えています。（バートレットと私によるウィンガー（Winger）批判については、エペソ人への手紙5章とペテロの手紙第一3章をご覧ください。）

14. 最後の、そして非常に重要な点です。**教会を建て上げることに関しては、賜物が性別にまさります。**ペテロにとって、ペンテコステは、宣教の奉仕の賜物が男性にも女性にも豊かに与えられる新しい時代の始まりでした（使徒2:17-18）。誰が牧会的に働き、指導し、教えることができるのでしょうか。女性の指導者や説教者についての聖書の実例は、性別に関係なく、賜物（およびそれにふさわしいキリストに似た品性）が教会における奉仕の基礎である、というパウロの勧めによって最もよく説明されます。使徒によれば、説教し、指導し、教える賜物を持つ人は、それを実際に行うべきなのです。こちら ケヴィン・デヤング（Kevin DeYoung）は、TGCの記事の中で「子どもたちやほかの女性たちを教えることは、女性の賜物の無駄遣い

でしょうか」と問いかけています。パウロはデヤングに（コリント人への手紙第一12章21-24節で）、それは賜物を与えられた女性たちを辱め、彼女たちの奉仕を必要としている男性たちから奪うことになる、と答えています。**男性たちが、ただ女性であるという理由だけで女性指導者や女性教師の奉仕を拒むなら、それは、からだのある部分がほかの部分に向かって「あなたはいらない」と言うようなものです。**

私はこう結論します。男性と女性は、神によって異なるものとして造られましたが、機能的には同等です。**これは文化が生み出したものではなく、かつてあり、今あり、やがて来る神の国の根本的な価値です。**

それはまた、うまく機能する価値でもあります――素晴らしい仕方で。**男女混合の指導チームや説教チーム、そして互いに従い合う夫婦は、より健全で、より幸せです。**逆に、教会と結婚における男性の権威という教えは、霊的健康のいくつかの危機の一因となり、非常に多くの教会や結婚を不必要に不利な立場に置いてきました。**それはまた、賜物を与えられ召された女性たちを制限し、キリストについての教会の証しを損なってきました。とりわけ、社会のほかのすべての領域で女性が自分の賜物を用いることができるようにしている文化においては、そうです。**

追伸：もしもう少し何かを見る時間がおありでしたら、こちらに動画があります。そこで私は、私の国にあるアッセンブリーズ・オブ・ゴッドの教会の大きなグループからインタビューを受けています。彼らは私の本を読んだ後、奉仕における女性についての教理的見解を新たにしたのです。実際、私はインタビューの後、彼らが初めて公に多くの女性を指導者として任命するのを目にする特権にあずかりました。

テラン・ウィリアムズ（Terran Williams）の文章に基づき、本人の厚意による許可を得て、Hans-Jörg Ronsdorfが編集・加筆したドイツ語版、2023年3月22日

補完主義は、しばしば女性たちがそれを支えているからこそ機能しているにすぎません。もし私たち全員がそれを支えるのをやめたら、どうなるでしょうか。

www.hans-joerg-ronsdorf.de

注

1. **補完性（Komplementarität）とは、認識論の用語で、（一見）互いに矛盾し、互いに排除し合い、互いに還元することのできない二つの記述の仕方や実験の設定を指します。しかしそれらは、互いに補い合うことによって、ある現象や事柄を全体として理解するために必要なものです。**

   補完物（Komplement）とは何でしょうか。補完物（ラテン語 complementum＝「補足」「完全にするもの［手段］」）とは、一般に、何かほかのものを補うものを指します。

   「補完的」（komplementär）の最もよく用いられる同義語は、「補足的な」「相互的な」「互恵的な」です。